

こんな先生
いるよ!

「やりたいことには
思い切って
挑戦してみよう」

教養教育研究院
神楽坂キャンパス教養部准教授
はりかえ
張替
りようこ
涼子
先生

書物自体を研究対象とする書物学

どのような研究をされていますか。

16世紀スコットランド文学、特に年代記を中心に研究しています。スコットランドが一つの国家として意識を高めていた時期に国家プロジェクトとして製作された歴史書を通して、国民にどのような国家意識を浸透させようとしていたのかを書物学の手法も使いながら探ります。

書物学は、書物の内容だけでなく物質的・技術的側面から調査・研究する学問で、例えば材料(紙、羊皮紙など)、書体、印刷や製本技術、流通過程、ひいては書物自体に残る書き込みなどの情報から、その書物が作成された意図やそれを読者がどのようにに受容していたのかを考察します。マテリアル的な考証には自然科学系の研究者の知見も必要とするので、理科大の学生も興味を抱きやすいのではないかと思います。

所属する教養教育研究院では、現代文学や芸術を研究する先生方と共に一つの授業を担当しており、授業では、分野を超えたつながりを感じてもらうこと、俯瞰的あるいは横断的な物の見方や考え方を身に付けてもらうことを目指しています。

無我夢中だった英国留学時代

研究者を志したきっかけは。

最初からどうしても研究者になりたかったわけではありません。大学院進学や博士課程進学などの折々で「もっと深く知りたい

い、考えたい」という好奇心が芽生え、そのたびに私の背中を誰かが押してくれて：それが今につながっていると思います。

その一つ、オクスフォード大学への留学は私の人生を大きく変えました。厳かで美しい図書館で自分の研究に一日中没頭できるのは、夢のように幸せな時間でした。指導教員は超一流の研究者で、「これで博士号を取れると思うているの?」とお叱りを受け泣いたこともありましたが、必死で食らいついて勉強し、最終的には同期で一番早く博士論文を提出することができました。どんな選択をしても「これでよかったのか」という思いは誰しも抱くし、人生には正解も不正解もないと思います。失敗してもやり直せますので、もし私が学生から相談されたら、やらないで後悔するよりは思い切ってやってみることをお勧めします。

結婚後に留学、出産後に理科大へ

子育てと仕事の両立はいかがですか。

結婚したのは留学前でした。帰国後、母校の慶應義塾大学などで非常勤講師の仕事をしてながら2013年に出産。長女が3歳の時に理科大に着任し、今に至ります。

早いもので子どもたちは中一と小二です。私は家のことは必要最低限のことをしている感じで完璧な親には程遠く、疲れて落ち込んだ時には、子どもたちの方が気を遣って励ましたり労ったりしてくれます(笑)。私らしく焦らずに、今できることを一生懸命にやることを心掛けています。

藤沢享乃(ジェイクリエイト)

【写真左】読者の書き込みが残る、ジョン・ハーディング『イングランド年代記』の写本(1470年頃) 【写真中】オクスフォード時代の指導教授(隣)と(2023年7月) 【写真右】理科大・教養教育研究院所属の研究者による領域横断型のシンポジウムにて(2025年3月)

